



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
8月29日
発行

第145回

「円安から円高へ」

～日銀執行部人事に注目～

初めに

為替市場では日本円の低迷が続いています。日銀には円安を止めようとする姿勢は見られません。米国で追加の利上げが見込まれているとあっては、それも無理はないでしょう。しかし、自分は既に円安は最終盤にあり、ここから為替レートは円高方向へ向かう、とみています。今回は、今後の円の見通しについてお話しします。

ここから円高を見込むわけ

為替市場ではまだ円安を見込む方が多いようですが、にもかかわらず自分が円高への転換を見込む理由は2つあります。FRBの金融引き締めペースダウンと、今後、総裁及び日銀審議委員の交代が見込まれていることです。

果敢な金融引き締めが功を奏す

前から申し上げているように、バイデン大統領やパウエルFRB議長にとっての今回の金融引き締めの目標は、今年11月の中間選挙に間に合うようインフレを沈静化させることです。ここまで思い通りに政策は進まず、さらにインフレでダメージを受けるのはバイデン氏の支持基盤である中間層とあっては、インフレ沈静化は中間選挙勝利の絶対条件でしょう。現時点ではインフレが完全に終わったわけではありませんが、それでも果敢な利上げにより、ある程度まで抑え込んだと自分は評価しています。おそらく、ここからは金融引き締めのギアを段階的に下げることになるでしょう。であれば、日本円に対する売り圧力も徐々に小さくなると思います。これが、ここから円高を見込む1つ目の理由です。

審議委員交代で円高へ

この世界的なインフレが始まって以来、各国の中央銀行は利上げや通貨介入などの金融政策を用いて物価上昇を抑え込もうとしました。そうした中、日銀はインフレへの対応策を示さず、批判を浴びることもありました。これも日本のインフレの原因の一つであり、円安の原因でもあります。しかし、今後そうした日銀のスタンスは徐々に変わると期待しています。その理由は、日銀総裁及び審議委員の人事です。

これまで日銀の審議委員はいわゆるリフレ派が多数を占めており、インフレ時にも資金の供給を続けてきました。しかし、先月審議委員に就任した高田創氏は就任前から異次元緩和を批判しており、この人事は政府が異次元緩和からの脱却を図っていることを示すものとの見方もあります。であれば、日銀が今後他の中央銀行と同様の金融政策を取るようになることも期待できるでしょう。そうした期待感が高まれば、為替市場は円高に動く、とみています。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。